

🏆 奨励賞報告

「令和5年度島根県スポーツ奨励賞」はスポーツの普及・振興に顕著な功績が評価されるもの。飯南ハンドボールクラブは、飯南高卒業生を中心とした社会人チーム。大会での成績、飯南高ハンドボール部での練習指導やまちの生涯スポーツ推進等へ寄与している点が評価されました。

併せて、令和12年開催予定の「島根かみあり国スポ・全スポ」に向け、小学生対象のハンドボール体験教室開催など、競技力向上に努めている点も評価されました。



3月1日には、監督の中山さんが町長と教育長に受賞を報告



キャプテンの中岡伸さん

🏆 キャプテンから皆さんに

私たちは、主に飯南高のハンドボール部のOBが集まったクラブです。

同世代で飯南町に住んでいるハンドボール部のOBが多く、大人になってもハンドボールをやりたいという想いで活動しています。

これまでは、高校の部活動でしかハンドボールができませんでした。大人の私たちが活動することで、飯南町でのハンドボールの知名度を高め、スポーツ少年団など幅広い世代でハンドボールができる環境を増やせたらと思っています。

練習はそれぞれの仕事の都合もあり月に1回程度です。頓原中学校の体育館を借りて、2時間ほど練習しています。

経験者でもそうでない方も、興味のある方はお声がけください。



ハンドボールを次世代に!

今月は

「令和5年度島根県スポーツ奨励賞」を受賞し、ハンドボールに真剣に向き合う飯南ハンドボールクラブを取り上げます。

楽しみながらも真剣に

2月15日、松江市のホテルで開催された「令和5年度島根県スポーツ功労者スポーツ奨励賞」の表彰式。団体として唯一の奨励賞を受賞したのは、平成2年に結成され、近年、活発に活動している「飯南ハンドボールクラブ」です。同クラブは現在、学生や社会人16人が所属。大会への出場や定期的な練習を行っています。

3月8日19時30分から行われた練習に参加したのは9人。会場の頓原中体育館には、選手同士のぶつかる音や味方への指示の音が響き渡ります。

クラブでの練習は月に数回。参加するのは10人前後だそう。「メンバーの多くは20代の若者。仕事もあるし、結婚して子育てもあるので、全員揃うこ



石飛完多さんと中山直樹さん

孫の世代まで

「高校卒業後も飯南町でハンドボールができる環境づくり」「若者が地元に残るきっかけづくり」がクラブの目標でしたが、最近、目標も少しずつ変わってきたそう。

「今後も大会で優勝すること」「国体選手に選出されること」。メンバーそれぞれの目標があります」と中山さん。「クラブとしては、「ハンドボールの魅力」を次世代につなげる」ことが目標です」と話します。

昨年7月には、島根県ハンドボール協会との共催で、小学生対象のハンドボール教室を町内で初めて開催。今後も継続して開催していく予定なのだそうです。次世代のプレーヤー育成にも力を入れています。

「町内の子どもたちにハンドボールの魅力が伝わり、競技人口が増えればうれしい。個人的には、プレーを続けている息子やメンバーが、その子どもたちとプレーしている姿を観るまで、プレーできる環境を整えて、魅力を伝えていきたい」と笑顔の中山さん。

「次世代につなげる」――。プレーできる環境や真剣に取り組むこと。ハンドボールの魅力だけでなく、そんなことも伝わってきました。

仕事にも好影響

「仕事以外で真剣に取り組むことがあるのは、若者にとってもいいこと。その分仕事にも真面目に取り組んでくれています」と中山さん。「みんな高校からの経験者。体の動かし方も分かっているんで、意外と怪我もありませんよ」と続けます。

クラブのメンバーの多くは町内在住の社会人。メンバーの石飛完多さん(頓原)も町内でハンドボールを続けている一人。「ハンドボールができる環境があることに感謝しています。ハンドボールを続けられることが、Uターンした理由の一つです」と石飛さん。「ハンドボールをすることで、仕事に迷惑を掛けることはできないので、仕事も真剣です」と笑顔で続けます。

真剣にハンドボールに向き合う石飛さんやメンバー。その理由は「楽しさ」だけではなく、チームとしての目標がありました。



仕事後に職場で今後の練習日程や内容の話合い



1月の「第47回松江市冬季ハンドボール大会」で優勝



昨年開催の「ハンドボール教室」には多くの町内の小学生が参加